

## 2026年3月香港日本語教育セミナー：「日本語教育と日本語学」の概要

【講演会】 2026年3月21日（土曜日）午後2時～5時30分

会場：香港大学本部メインキャンパス 明華総合大楼 G/F - MWT2

講演1 野田尚史 教授（午後2時～午後3時半）

演題：日本語教育に必要な日本語文法とは？

一般的な日本語文法の目的は、できるだけ簡潔で体系的な規則で言語現象を網羅的に記述することです。それに対して、日本語教育に必要な日本語文法の目的は日本語を母語としない日本語学習者の「聞く」「話す」「読む」「書く」能力を高めることです。この講演では、一般的な日本語文法と日本語教育に必要な文法の違いを意識しながら日本語教科書を分析した上で、日本語教育に役立つ日本語文法とは具体的にどのようなものかを考えていきます。

講演2 小林ミナ 教授（午後4時～午後5時半）

演題：これからの日本語教師に求められる文法教育力

日本語教育の現場では「文法が間違っていても、言いたいことが伝わればよい」「文法よりコミュニケーションのほうが大切」などと言われることがあります。「話しことばでは、文法が乱れがちである」などと言われることもあります。ここでいう「文法」とはいったい何でしょうか。この講演では、「文法とはなにか」という根源的な問いを踏まえた上で、日本語教育における文法教育の役割を理解し、日本語教師に求められる文法教育力について考えます。

**【ワークショップ】 2026年3月22日（日曜日）午後1時～5時30分**

**※同一内容を2つのセッションで開催します。**

**ワークショップ1 野田尚史 教授**

**テーマ：日本語教育のための日本語学**

**会場：香港大学本部メインキャンパス 明華総合大楼 G/F - MWT2**

日本語教育を行うためには、音声や語彙、文法、表記など、さまざまな日本語学の知識が必要です。その知識によって日本語学習者が使う不自然な日本語を分析する能力も必要です。ただし、一般的な日本語学の知識の中には日本語教育にとって重要なものとあまり重要ではないものがあります。このワークショップでは、グループワークと各グループの発表を通して、日本語教育に必要な日本語学とは具体的にどのようなものかをいっしょに考えていきます。

**ワークショップ2 小林ミナ 教授**

**テーマ：Can Do を目指した日本語授業と文法教育**

**会場：香港大学本部メインキャンパス 明華総合大楼 G/F - MWT3**

ことばは、常に個別具体的な状況のなかで使われ、それぞれの状況における意図や解釈を生み出します。日本語学習のゴールを、「言語知識の獲得、集積」ではなく「日本語で何かができる（Can do）」とするなら、状況からことばを切り離すのではなく、ことばと状況を不可分なものとしてセットで見ていく姿勢が必要です。このワークショップでは、「「状況」のなかで言語とコミュニケーションを考える」というアプローチについて理解を深めるとともに、グループでの意見交換を通じて、それぞれの現場での授業実践に落とし込むことを目指します。